

まちかど研究室における 柏崎市中心市街地活性化に向けた取り組み

新潟産業大学 経済学部 文化経済学科 3年 齊藤 千紘 吉川 由
指導教員 新潟産業大学 経済学部講師 権田 恭子

0. 2019年のまちかど研究室

まちかど研究室では、昨年度(平成30年度)の事業峻別により7年間続いた市の委託事業としての活動が終了し、今後は新潟産業大学は新たな拠点に移り、新潟工科大学は拠点を持たず、大学の独自事業として時に二大学で連携し、時に各大学の個性を活かして、活動を継続していくこととなった。今年度は7月までは従来の拠点で活動し、7月20日にクロージングイベントを行い、7年間お世話になったニコニコ商店街の方々や拠点の店舗に感謝を表し、9月からは新潟産業大学では、柏崎駅近くの新たな拠点に移り活動を継続した。秋以降は今年度も二大学共同プロジェクトであるスタンプラリー@商店街を実施する一方、産大では権田ゼミナールの学生が中心となって、柏崎高校1年生の探究活動「KSP I」への参加、「柏崎冬のフェスティバル」の開催といった新たな事業を展開した。

1. 第一期：4月～7月末

(1) まち研カフェと季節のイベント

まち研カフェは産大権田ゼミのまち研プロジェクトとして平成27年度から継続して行っていたが、今年度も5月と7月にまち研カフェを開店した。

5月のカフェは遊びカフェと称して、5月21日から24日までの4日間行い、最終日にはキャンドル作りも行った。天候の影響のためか最初の3日間は来客が少なめであったが、最終日には小学生と大学生が多く来店してくれた。また、以前からカフェの常連であり今年度から中学生となった子や昨年カフェを手伝ってくれた高校生も遊びに来てくれたことも嬉しい変化であった。

7月のカフェは旧拠点での最後のまち研カフェとして、「ちょっと昔の遊び」をテーマに7月2日から5日までの4日間行い、最終日は七夕パーティーと

して流しそうめんやかき氷を振舞った。「ちょっと昔の遊び」として輪投げやパターゴルフなどを用意し、来店してくれた子どもたちが自由に遊べるようにした。また、流しそうめんは店舗前に人工竹を設置し、本格的な流しそうめんを行った。7月カフェは大好評で最終日だけで47名、4日間合計で約100名の来場者となり盛り上がった。

5年間のまち研カフェの来客者はのべ約1,200名となり、長年の活動の大きな成果であると考えている。



(2) まち研クロージングセレモニー

7月20日、まちかど研究室旧拠点にてクロージングセレモニーとイベントを行った。第一部ではまちかど研究室の活動を支えてくださった地域の方々や二大学の学生、教職員が参加し行われた。学生から参列した地域の方に向けて、これまでの活動成果を報告し、また、ニコニコ商店街小川理事長への感謝状を贈呈した。



第二部では学生主体のイベントが行われた。前半は学生が用意したクイズやミッションをクリアすることでスタンプを集め、クリアを目指すクエストを行った。クイズはまち研や柏崎にちなんだ問題と平成の出来事をまとめた問題があり、ミッションとしては大学生とチェキを撮るなど参加者と大学生が交流できるものとなっていた。後半はホットケーキに参加者でデコレーションをして楽しく、美味しくいただいた。個性豊かなケーキが出来上がり、見せ合ったり写真を撮ったりと交流の場となった。

最後には第一部のセレモニーに参加して下さった商店街の方々も含む参加者からまち研へのメッセージを書いていただき、メッセージは7月末までまちかど研究室に展示した。

今年度の4～7月はすでに市の委託事業は終了していたが、クロージングイベントで旧拠点での活動を締めくくることができた。引っ越し作業も学生が中心となって行い、9月からは産大は新拠点に移り、第二期の活動へとつなげていった。

2. 第二期：9月～現在

(1)新拠点「柏崎コワーキングスペース K.Vivo」

9月からのまち研活動は拠点を「柏崎コワーキングスペース K.Vivo」に移し、気持ちも新たに活動を始めた。K.Vivoは旧拠点より柏崎駅に近く、人通りも多いため以前より地域の方に活動を見てもらえる拠点となっている。9月以降、産大権田ゼミでは毎週火曜のミーティング等をK.Vivoで行っている。



(2)スタンプラリー@商店街

今回で5年目となる二大学共同プロジェクト「まち研スタンプラリー@商店街」は11月9日に産業文

化会館を会場に開催された。今回は市の委託事業としての活動が終了して初めてのスタンプラリーであり、成功するか不安な中での開催だったが、例年同様約50名の小学生が参加してくれた。経費節減等の制約がある中で、工夫を凝らして参加者、スタッフとも満足度、達成感の高いイベントになった。



(3)「KSP I」(柏崎サイエンスプロジェクト I)

産大権田ゼミでは、柏崎高校で昨年度から新たに始まった「KSP」という探究活動に、まちかど研究室として参加協力した。「KSP I」とは柏崎高校1年生が柏崎の発展や歴史等についてグループでテーマを決め、フィールドワークを行いオリジナルの答えを見つけていく活動である。その中で学生たちはまちかど研究室の取り組みに興味を持ってくれた5グループのサポートとして、9月～12月にかけて、2～3週に一度の頻度で高校生と共に活動を行った。5つの班はそれぞれ柏崎を元気にする案として、時には実際に商店街に出て地域の方にインタビューする等の活動を通じて、柏崎のマップアプリや商店街のシャッターデザインなどを考案した。1月20日にはブルボン本社10階大ホールでポスター発表会が行われ、学生も参加し成果を分かち合った。



(4) 「NIIGATA COC+地域活動・学生発表交流会」

12月7日に新潟大学で行われた「NIIGATA COC+(地(知)の拠点事業)地域活動・学生発表交流会」に参加した。県内9大学23団体が参加し、大学生が取り組んでいる地域活動についてポスターセッションを行った。まちかど研究室の活動紹介については、昨年度は二大学共同で、今年度は産大の報告の中で行った。この発表会に参加しているのは、いずれも各大学において地域連携活動を積極的に行っている団体であるが、活動の方向性は異なるため、お互いの活動から刺激を受け、参考になる点も多く、自身の活動の今後の発展につながる有意義な場となった。



(5) 「柏崎冬のフェスティバル」

今年度初の取り組みとして、1月25日に「かしわぎき市民活動センターまちから」でまちかど研究室新潟産業大学主催の「柏崎冬のフェスティバル」というイベントを行った。柏崎には夏にイベントが集中し、冬にはあまりイベントがないことに注目し、若者の活力ある様子をアピールし、柏崎を盛り上げることを目的とし、気軽に楽しめるイベントを冬に開催すべく計画が始まった。権田ゼミの働きかけで、産大の学友会や留学生、ゼミナール等に出店を募った。また学内だけでなく、先のCOC+の発表交流会でご縁があった、敬和学園大学と新潟経営大学、新潟工科大学、さらには産大の学園祭に出演していただいた市内のナオダンススクールさん、新潟産業大学附属高校吹奏楽部にも参加いただいた。イベントは飲食や体験等の10ブースと5つのステージイベント、そしてCOC+とKSP Iの参加大学やまち研に係るポスター展示のコーナーも設けた。来場者、スタ

ッフ合計で約180名が集う大イベントとなった。遠方より参加された敬和学園大学は学生制作動画上映とダンスステージを、新潟経営大学はコケテラリウムづくりのブースでイベントにご協力いただいた。

今年度初の試みだったが、しっかりと集客もあり、会場は終始にぎわっていた。県内4大学の学生が学問的な専門性を活かした体験ブースを構え、また、若さ溢れるステージ発表や、工夫を凝らした飲食コーナーまで、多彩な『大学生を中心とした若者の力』を地域の方に知っていただくイベントとなった。



4. 今年度の活動から来年度へ

今年度は市の委託としての活動終了やそれに伴う拠点の移動、高校生や他大学との新たな試みなど、まち研にとって激動かつ挑戦的な1年だった。7月までの第一期は7年間続いた旧拠点での事業の集大成として活動し、9月からの第二期は新拠点に移り、一から今後の基礎となる活動を行った。大きな転換期を迎えたまち研であるが、今年度行った高校生や他大学との活動は一定の成果を出すことができ、来年度以降、さらに発展できる余地があると考え。今年度自分たちの力で地域に貢献する活動ができたことは大きな一歩だったと考える。

昨年度をもって市の委託事業は終了したが、大学の独自事業となっても、これからもまちかど研究室は大学生が中心となって人と人をつなぎ、人々が憩い、楽しみ、地域を元気にする場を創出する活動を続けていく。学生たちはまだまだ未熟で経験も少ないが、今後も地域に根差した活動をしていきたいと思う。地域の方々には今後も一層のご指導とご協力をよろしく願います。